



第5回

“ウォーキング倶楽部”

と き: 令和4年9月24日(土) 午前9:00開

と ころ: 秋田県にかほ市三崎公園駐車場

【今回の見どころ】

遊佐 初秋の三崎公園遊歩道

三崎公園は、秋田県と山形県の県境にある標高70メートルの三崎山一帯です。約3000年前鳥海山噴火の溶岩で形成され、海水の浸食で切り立った崖が続きます。日本海に突き出た「観音崎」「大師崎」「不動崎」の3つの岬が名の由来となっています。日本海に沈む夕日や飛鳥と一緒に眺められるビュースポットです。



不動崎



大師崎



羽後三崎灯台



観音崎

公園内に現存する三崎山旧街道は、箱根の山より険しいといわれ、日本海側の街道随一の難所として知られました。「地獄谷」「駒(馬)泣かせ」「沓掛」などの地名が当時をしのばせてくれます。また、松尾芭蕉が象潟をめざして「奥の細道」の旅をした街道としても有名です。

旧道沿いには山形県の天然記念物であるタブ林、慈覚大師が開いたと言われる大師堂、旧道の石畳などがあり、歴史や自然にもふれることができます。

大師堂(三崎神社)

慈覚大師(円仁)が草庵を結んだ所。大師は三崎山に道路を通す傍ら、仏教の教えを説いていました。大師がこの地を離れる際、大師を慕う人々の為に、自分の像を刻み、これを身代わりとしてこのお堂に納めたという伝説があります。現在の建物は江戸時代に建てられたとも言われています。



戊辰戦争慰霊塔



幕末三崎山は戊辰戦争の激戦地となり、双方多数の戦死者が出ましたがその遺体は、誰からも拾われることもなく白骨化していました。50年近くたった大正4年ようやく供養・埋葬されました。

【写真・資料: フリー百科事典『ウィキペディア』
NPO法人 遊佐鳥海観光協会公式HPより】

三崎山 有耶無耶の関

と手長足長伝説

今から1200年程前、三崎山に「手長足長」という恐ろしい怪物が住んでいて、そこを通る旅人を捕らえて食べていました。この怪物は、手が鳥海山まで届き、足は飛鳥までひとまたぎでした。関所付近に住む三本足のカラスが、近くに手長足長がいるときは「ウヤ」と鳴き、いないときは「ムヤ」と鳴き知らせた為、人々はこの関所を『有耶無耶の関』と呼ぶようになりました。慈覚大師はこの話を聞いて退治に出かけました。手長足長は、大師の鋭い眼力と慈しみの心に負け、しまいには、降参してしまいました。大師は、人間の骨を集めて埋め、そこに五輪塔を建て冥福を祈り、手長足長のために三崎山にたくさんのタブの実を蒔いて行きました。それが現在、天然記念物で三崎山にうっそうと茂るタブの木なのです。

